

ぐうう…
いいぞお♡

なかなか上手く
なってきたじや
ないかメス犬う♡

四宮家の犬ならば
犬らしく舌使いを
覚えねばなあ♡

—は…はひ
光栄でふ…

んあ♡♡

れ♡

ピチャ♡

ひゃい♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ほれ
どうした？

犬らしくもっと
舌で下品に喉の
渴きを潤しては
どうだあ？

ワシの先走り汁
をなあ♡

ギ

シッ

自分の飼い犬が
他の主人に
飼われて奉仕
していると
知ったら…

あの四宮の
小娘はどう思う
かのお？

なんなら
ワシから伝えて
やろうか？

んっ…っ♡

んっ♡
ふっ♡

ちっ♡
ふっ♡

んっ♡
ふっ♡

んっ♡
ふっ♡

んっ♡
ふっ♡

そ…それだけは
おやめ下さい…!!
ンンッ…!!

はっはっは♡
そうだろうなあ♡
ならしっかり
奉仕しないとなあ♡

今頃お前の
主人は何を
してると思う？

犬の苦勞なぞ
知りもせず…ッ！
甘酸っぱい青春を
謳歌してるん
だらうなあ？

うう…ッ

グス…

フーッ

んんん

んんん

それに比べて
飼^{おまえ}い犬は
哀れよなあ？

主人と家のために
こんな中年男に
貸し出されて…ッ！

こうしてしゃぶり
つかないとならん
だからなあ♡

うん…♡

ちゅぽ♡

ぬぽ♡

ちゅぽ♡
ちゅぽ♡

ハァ
せいぜい…ッ！

四宮の小娘が
上手く世渡り
できるよう…ッ！

政敵に
尽くすん
だなあ♡

フーッ

おう…おおッ♡
いいぞお♡
射精すぞメス犬う！
しっかり飲めよお♡

ウウッ♡



バカモン！
なぜ飲まん！
飲み込めと
言ったらうが！

せっかくワシの
種汁でメス犬の
喉の渴きを
潤してやろうと
したのに…

う…
う…
うう…ッ！

も…申し訳
ありません…！

ほれ！
さっさとキレイに
せんか！
使えん奴だな！

ド
ロ
オ♡

フーッ♡
フル

フル

フル

フル

フル



丁寧に舐めて扱えよ？
これからソレは
お前の主人よりも
世話になるからなあ♡

♡♡♡

そうだあ…♡
ぐうう…ッ！
年甲斐もなく
また勃って
きたわい♡

ん…
んあ…！

はあ♡

んく

れろ♡

ピチャ♡

ひゃう♡

んぬ

は…
はひ…！

すみま
ひえん…

ん

はあ♡

ほれ！
表面だけじゃなく
鈴口から中に残った
ザーメンもキレイに
吸い取らんか！

♡…♡…♡



ぐひひ…♡
また固くなって
きたのが
わかるだろう？

よおし！
駄犬にもう一度
チャンスを
やろう♡

そのまま
啜え込んで見事
もう一度イかせて
みせろお♡

んふ…ッ！
ふ…ふあ…！

んん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ちゅ♡
ぽ♡

ぬ♡
ぽ♡

く♡
ぽ♡

く♡
ぽ♡

ちゅ♡
ぽ♡

ふ♡

ん♡

ん♡

ん♡

はははあッ…♡
四宮の犬が
美味そうに男根を
しゃぶりおるわ！

下品な顔で
啜えおって！
それでも四宮家の
近侍かあ？

ぐううう♡♡
そらあ！種汁を
くれてやろう♡

フーッ♡

今度は
こぼすなよお？

んむっ♡

フー♡

イクッ…！
射精るう…ッ♡
うおお！

んふうー♡

ちゃっぽ♡

ぐっぽ♡
ぐっぽ♡

ジュッポ♡
ぐち♡



おおおお…♡
四宮の意地汚い
メス犬に搾り
取られるうゝ♡

ぐひひッ♡
飲めよッ！
一滴残らずう♡

んゝ♡

びゅ♡
びゅ♡

びゅ♡

ず♡

る♡

ぢゅるる

ニッ♡

んう…♡
んふう…♡

フ

フ

フ♡



こっ...♡
ん...ッ!

はははッ!
本当に飲み干し
おったわ♡

命令に従順なことだ!
いや大いに結構!
まさにメス犬だなあ♡

ぐんぐん
ん
♡

フッ♡

ッ♡

フッ♡

フルフル♡

...んっく♡

ほれ! どうした?
第二の主人に施しを
受けたんだぞ?
おれはどうした?

う……う……
あ……ありがとう
ございます……！

ケホッ

ゴホッ

結構結構♡
よいか？
四宮の小娘に
手を貸す代わりに

お前にはまだまだ
ワシの性近侍として
働いてもらうから
なあ……♡

はぁ……♡

は……はい

はぁ……♡

なんなりと
お申し付け……
下さ……い♡
づ……う……！

うう……！！
かぐや様……
私は……























